山口県教育会現職研修奨励事業　　令和3年度学校研修概要

PTA＋Community→高水PTCA活動活性化プラン

周南市立高水小学校

１　主題設定の理由　～なぜPTCA活動か～

本校は校舎北側には烏帽子岳、校地の側には島田川の分流である石光川が流れる、「山高く、水清し」豊かな自然に恵まれた学校である。開校１３７年の歴史をもち、明治時代の高水村塾時代からの教えである「楽学」の精神を脈々と受け継いでいる。地域住民の郷土に対する誇りは高く、地域・保護者の小学校に対する思いも熱いものがある。

そのような恵まれた環境の中で、全校児童１０９名は、日々充実した学校生活を送ることができている。子どもたちは純朴で、礼儀正しく、何事にも一生懸命取り組むことができる。

保護者も大変協力的で、これまでの先輩保護者が構築されてきたPTA活動に献身的に取り組んでくださる。また地域住民も学校に協力的な方が多く、快く学校支援の手を差し伸べてくださる。

これらの協力的なPTAや地域（学校運営協議会を中心としたcommunity）の存在は、本校最大の強みであり、両者の活動を有機的につなげ、協働的なものにするPTCA活動を推進していくことで、高水小ならではの教育を展開できるのではないかと考えた。

２　PTCA活動推進による予想される効果

（１）子どもたちへの豊かな学びの提供

子どもたちの学びは教室に限るものでなく、様々な環境・人・ものを工夫することにより、無限に広がっている。高水地区の豊かな自然環境、協力的なPTAと地域住民との関わりを通じて学ぶことで、子どもたちの高水地区に対する郷土愛や周囲の人々への感謝の気持ち、高水地区に対して何ができるかを創造する社会貢献への意欲などを醸成することができるのではないかと考えた。

（２）PTA活動の変革・改善

昨今の社会課題の一つとして少子化があげられている。この問題は高水小も例外でなく、ここ３年間で見てみても、令和元年度が１３０名あまりだった全校児童数も令和４年度には１００名となる予定である。当然家庭数も減少する中で、従来のPTA活動のあり方に見直しを図ることが喫緊の課題となっている。専門部数の見直しや活動内容の精選などを進めているが、そのPTA活動に地域（コミュニティ）の力を注入することができれば、PTA活動の充実と活動改革にもつながり、大きな助けになるのではないかと考えた。

（３）コミュニティの生きがいの醸成

地域住民から「どうやって学校に関わっていいのかわからない」「私みたいな者が学校に行っていいのか」と言った意見を耳にすることがあった。以前から「学校に行こうでい」と銘打ち、毎月１５日に学校を開放する取組を継続していた。しかしながらコロナ禍の影響もあり、来校者数はこちらが期待するほど伸びなかった。そこで、PTA行事の日にコミュニティの協力を得る形にすることで、目的が明確になり、コミュニティの方々の参画意識や満足度も高まるのではないかと考えた。

３　活動記録

（１）芋の収穫体験

これまで一部の地域住民のご厚意とご尽力で、「芋の苗植え」と「芋掘り」をそれぞれ春と秋に子どもたちに体験させることができていた。課題として、一部の地域住民の負担が大きく、年々高齢化が進む中でこの活動自体を持続可能なものに変えていく必要があった。

そこで今年はPTCA活動の一つとして、PTAとコミュニティと子どもたちが一体となって、芋の苗植えから収穫までに関わることとした。

４月･･･種芋植え、ビニールかけ作業

PTA、コミュニティ、児童からボランティアを募り、４月初めの土曜日に作業を実施した。子どもたちにとって、芋づくりの最初の過程に携わることは初めてだったので、様々な発見があり、とても貴重な体験になった。また、保護者の多くにとっても初めての体験で、芋づくりの大変さと感謝の気持ちを改めて感じることができた。一部の地域住民にとっても、多くのPTAや子どもたちが作業に携わることで、作業負担の大幅な低減と芋づくりのやりがいを直に感じることができた。

６月中旬･･･種芋のつる切り、苗植え事前準備、マルチかけ作業

これらの作業にもボランティアを募り、保護者、コミュニティ合わせて２０名ばかりで作業した。これも多くの人が関わることで、一人ひとりの作業負担が軽減された。また４月の作業に続いて参加したPTAとコミュニティの間で、様々な会話が生まれ、共に作業する者同士の仲間意識が芽生えてきた。

６月下旬･･･芋の苗植え

高学年と低学年をペアにして（６年と１年、５年と２年、４年と３年）３時間に渡って芋の苗植え作業を行った。コミュニティの方々に苗植えの指導をしていただき、多くの保護者も子どもたちと共に作業に参加した。４月から作業に携わった子どもたちや保護者の中からは「作業が大変だったから、余計に秋の収穫が楽しみになってきました」との声を聞くこともできた。

１１月初旬･･･芋掘り下準備、マルチはがし

ボランティアの保護者、コミュニティ、教職員で実施した。繁茂した芋づるを切る作業は大変で、すべての作業を終えるのに約２時間かかった。軽トラック２０杯分の芋づるを取り出し、最後はマルチをはがして後日の芋掘りに備えた。この作業をこれまでは一部のコミュニティの方々が丸一日をかけて行っていたことを知り、保護者も教職員もその大変さと一部のコミュニティの方々のこれまでのご尽力に感謝と敬意の気持ちを新たにした。

１１月１２日･･･芋掘り

高学年と低学年をペアにして（６年と１年、５年と２年、４年と３年）３時間に渡って芋掘り作業を行った。コミュニティの方々に芋掘りの指導をしていただき、多くの保護者も子どもたちと共に作業に参加した。高学年が低学年の子どもたちに優しく教えてあげる場面も多く見られた。４月から作業に携わった子どもたちや保護者の中からは「最初からいも栽培に関わってきたので、こんなにたくさん芋を掘れて感動しました」などの声を聞くこともできた。

１１月下旬･･･焼き芋下準備

１１月末に開催される「楽学の集い（地域連携総合的な学習）」の際に、焼き芋を作って配付することにした。焼き芋表面の汚れを落とし、焼き芋用の芋、持ち帰りのお土産用の芋に選定する作業を６年生とボランティアの保護者で行った。

１１月２７日･･･楽学のつどい（焼き芋づくり）

楽学の集いにおいて、PTAによる焼き芋づくり、配付が行われた。石焼き芋用の備品を２台レンタルし、早朝よりPTA執行部並びに有志の方々が作業に加わった。児童が下校する際に、小袋に分けられた焼き芋を受け取り、持ち帰った。コロナの関係でその場で食することはできなかったが、児童にとっては家族に渡すうれしいおみやげになった。

（２）PTCAによる環境整備作業

本校では夏休みにPTAと児童・教職員による環境整備作業が実施されている。今年はPTA主催のこの行事に学校運営協議会を通じてコミュニティの方々にも参加を募り、多くの参加者を得ることができた。コミュニティの中には軽トラックを自ら持ち込んでくださる方もおり、草刈りし終えた草の運搬にも力になっていただいた。PTAの負担も軽減され、改めてPTCA活動の強みを感じることができた１日だった。

４　成果と課題

（１）成果

WIN-WIN-WINの関係

今年の芋づくりや環境整備作業に今まで以上に多くの児童、PTA、コミュニティが関わることができたことにより、子どもたちにとっては、PTAやコミュニティの方々への感謝の気持ちを新たにするとともに、今度は自分たちから何かできることはないかを考えるきっかけにもなった。またPTAにとっては、これまでのコミュニティの活動に携わることで、子どもたち同様感謝の気持ちを抱くとともに、子どもたち、コミュニティと協働する喜びを肌で感じることができた。そしてコミュニティにとっては、自らの自主的な活動により子どもたちやPTAを支援することにやりがいを感じ、それが生きがいとなって次なる活動への意欲を高めることができた。以上のように、子どもたち、PTA、コミュニティそれぞれがWIN-WIN-WINの関係になることができたことは大きな成果であった。

（２）課題

高水の未来を創造する児童の育成

高水では地域の方々に数々の学校支援をしていただいている。そのことに感謝の心が芽生えているが、高水に対して子どもたち自身に何ができるかを具体的に考えていくことが求められる。未来の高水に私たちは何ができるか、すなわち地域貢献のあり方を創造することがこれからの課題である。

最後に、このような研究の機会を支援していただいた山口県教育会に、心から感謝申し上げます。
ありがとうございました。